

縄文時代の片口付き土器

渡 辺 誠

1. 形態

縄文時代前期前半の関東地方の関山式土器にみられる片口付き土器については、その時期的・地理的分布についてのみ言及され、その特徴的な形態の背景にある機能についてはまったく検討されていない。もっともこのことは縄文土器全般についていえることである。本稿ではその縄文土器の機能の研究の一貫として、若干片口付き土器の検討を試みることにする。

機能と深く関連している形態の分類は資料の集成後に行うべきことであるが、記述の便宜上ここであらかじめその結果を記しておくことにする。

片口は主として深鉢形土器の口縁部に付けられるものであるが、鉢および浅鉢形土器にも付けられている。またそれぞれは断面形態の差異から、次の3類に分類される(図1)。

A類：底部から口縁部にかけて、バケツ状に直線的に開く形態。

B類：A類と同じように開きながら上部が立ち上がる形態。すなわち胴部上半が膨らむことに注目したい。

C類：B類と同じように胴部上半が膨らむが、さらにその上にある口縁部が発達している形態。

そして深鉢形土器には3類ともみられるが、鉢形土器にはC類はみられず、浅鉢形土器にはA類しかみられない。関山式土器には他にバケツ状ではなく、円筒状に近い深鉢形土器もみられるが、それらには片口の付けられたものはない。

なおこの時期に、片口付き

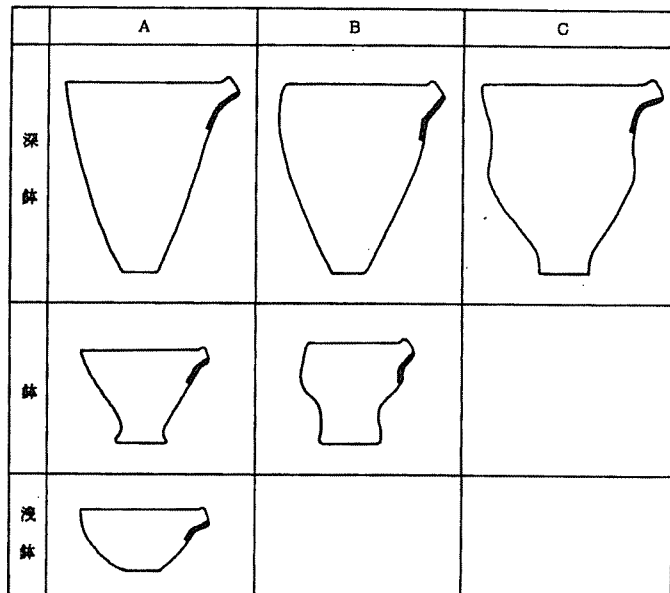


図1 片口付き土器の分類

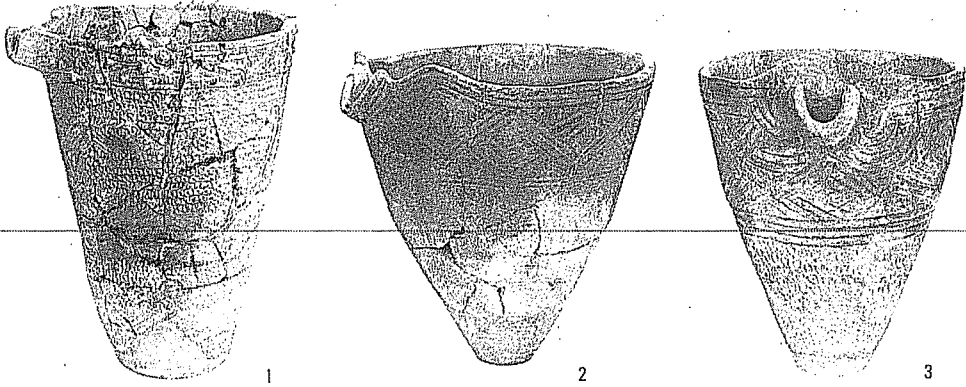


写真1 幸田貝塚出土片口付き深鉢A

片口付き鉢Aが1点出土。

12. 埼玉県北葛飾郡庄和町風早遺跡（田中他1979）

片口付き深鉢Bが1点（図6-5）出土。

13. 埼玉県行田市長野中学校校内遺跡（中島1984）

片口の破片が1点出土。

14. 埼玉県蓮田市栗崎貝塚（山内1939）

注口付き深鉢Bが1点出土。

15. 埼玉県大宮市深作東部遺跡群（大宮市調査会1984）

片口付き深鉢A 4点（図4-1～3），同深鉢B 1点（図6-6），および注口付き深鉢が2点出土。後者のうち1点は深鉢Cである（図7-9）。

16. 埼玉県大宮市宮ヶ谷塔遺跡（黒坂他1985）

注口の破片が1点（図7-10）出土。

17. 埼玉県大宮市琵琶島貝塚（大宮市1968）

片口付き鉢Bが1点（図7-6）出土。

18. 埼玉県浦和市大古里遺跡（岩井他1981）

片口付き深鉢Aが1点（図4-4）出土。

19. 埼玉県浦和市井沼方遺跡（小倉他1981・82・86）

片口付き深鉢A 7点（図4-5，5-1・2），同深鉢C 1点（図7-3），同鉢A 2点（同4・5）と，片口の破片1点が出土。

20. 埼玉県上尾市後山遺跡（安岡他1974）

片口付き深鉢Aが2点（図4-6，5-3）出土。

21. 埼玉県上福岡市上福岡貝塚（山内1939，奈文研1992）

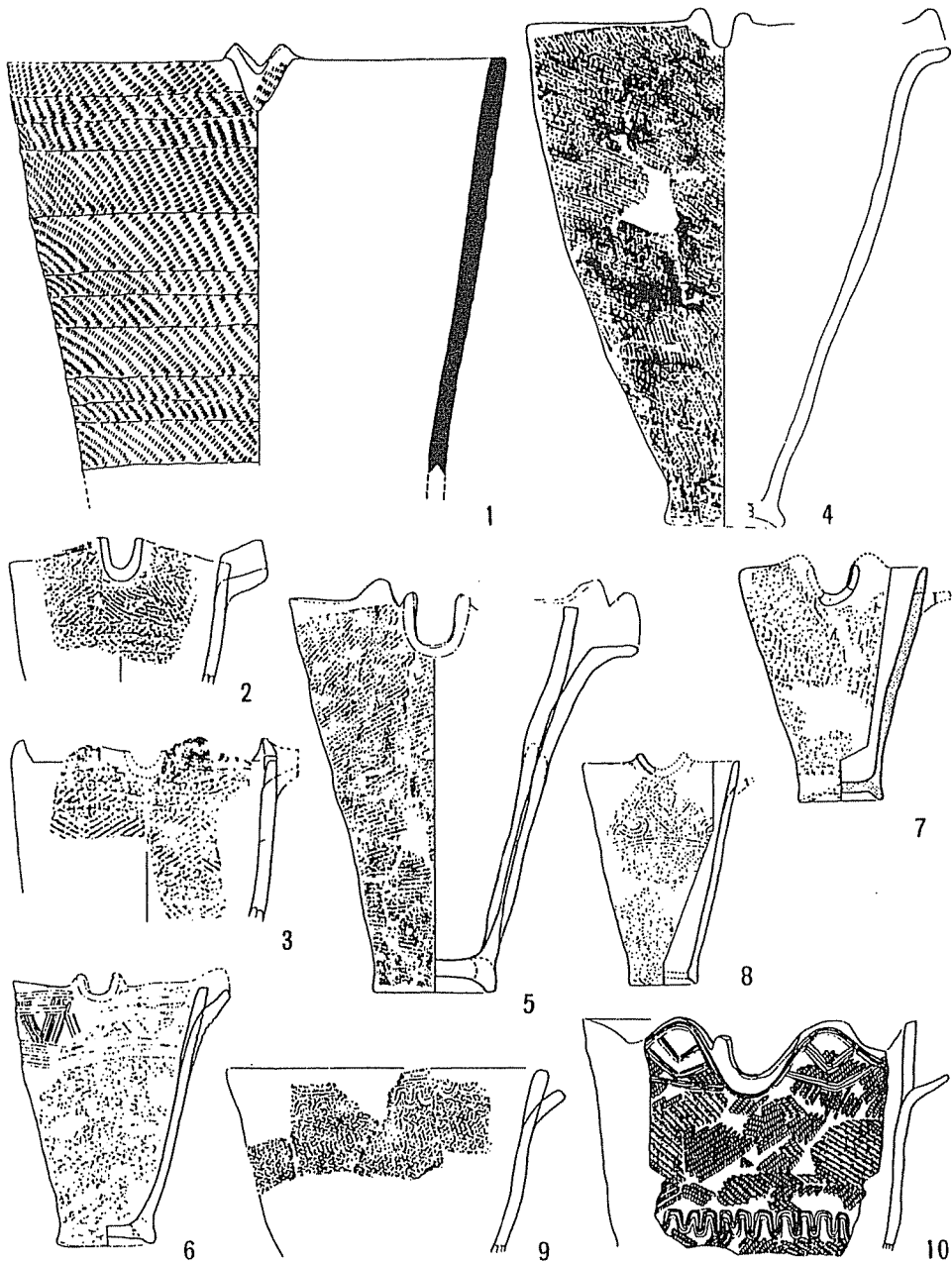


図3 片口土器実測図1 (縮尺5分の1, 各報告書等より. 以下同じ)
深鉢A (1:八幡脇, 2・3:篠山, 4~6:稻荷前, 7・8:泉北側第2,
9・10:谷津台)

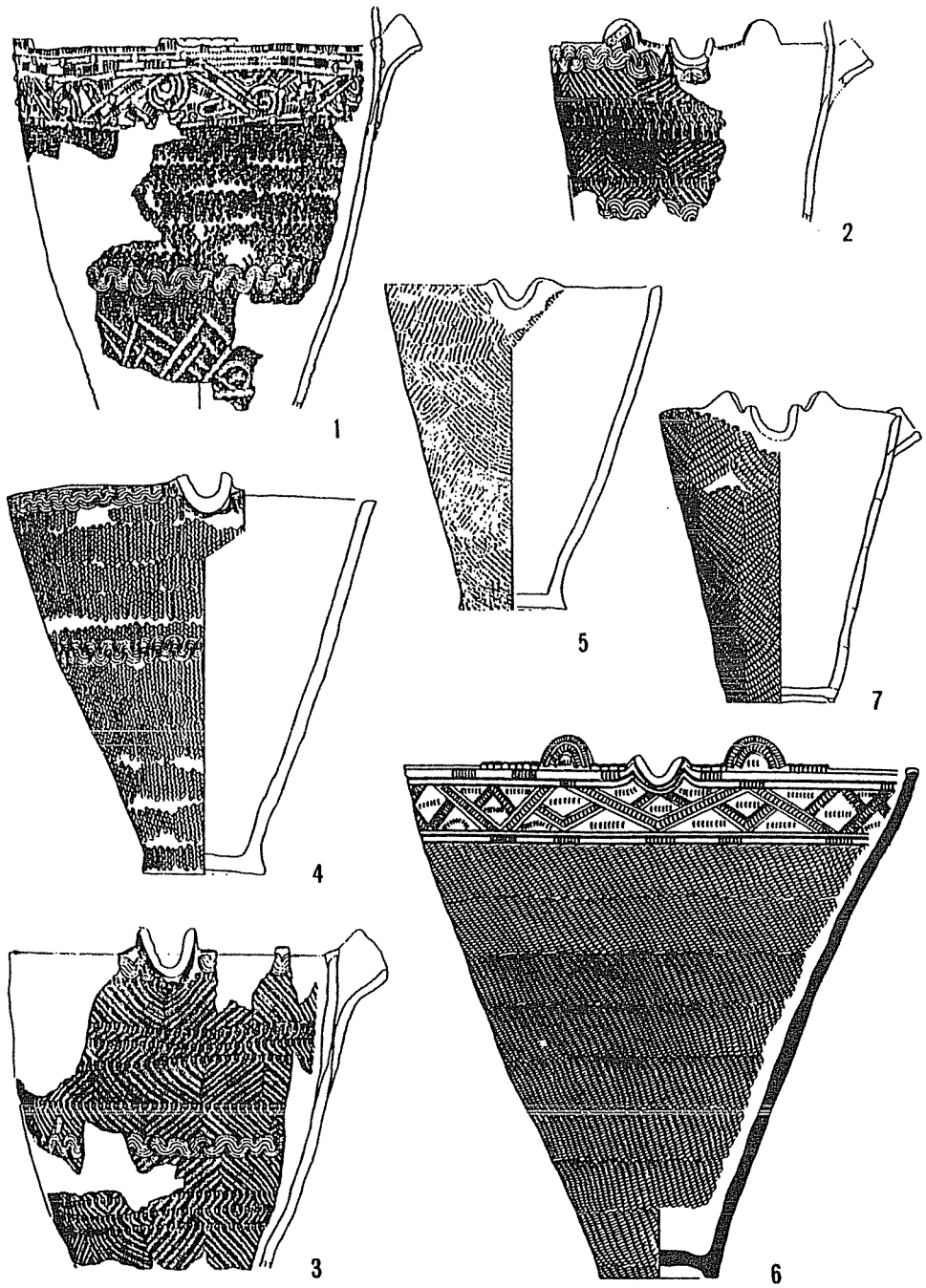


图4 片口付き土器実測図2

深鉢A (1~3: 深作東部, 4: 大古里, 5: 井沼方, 6: 後山, 7: 御庵)

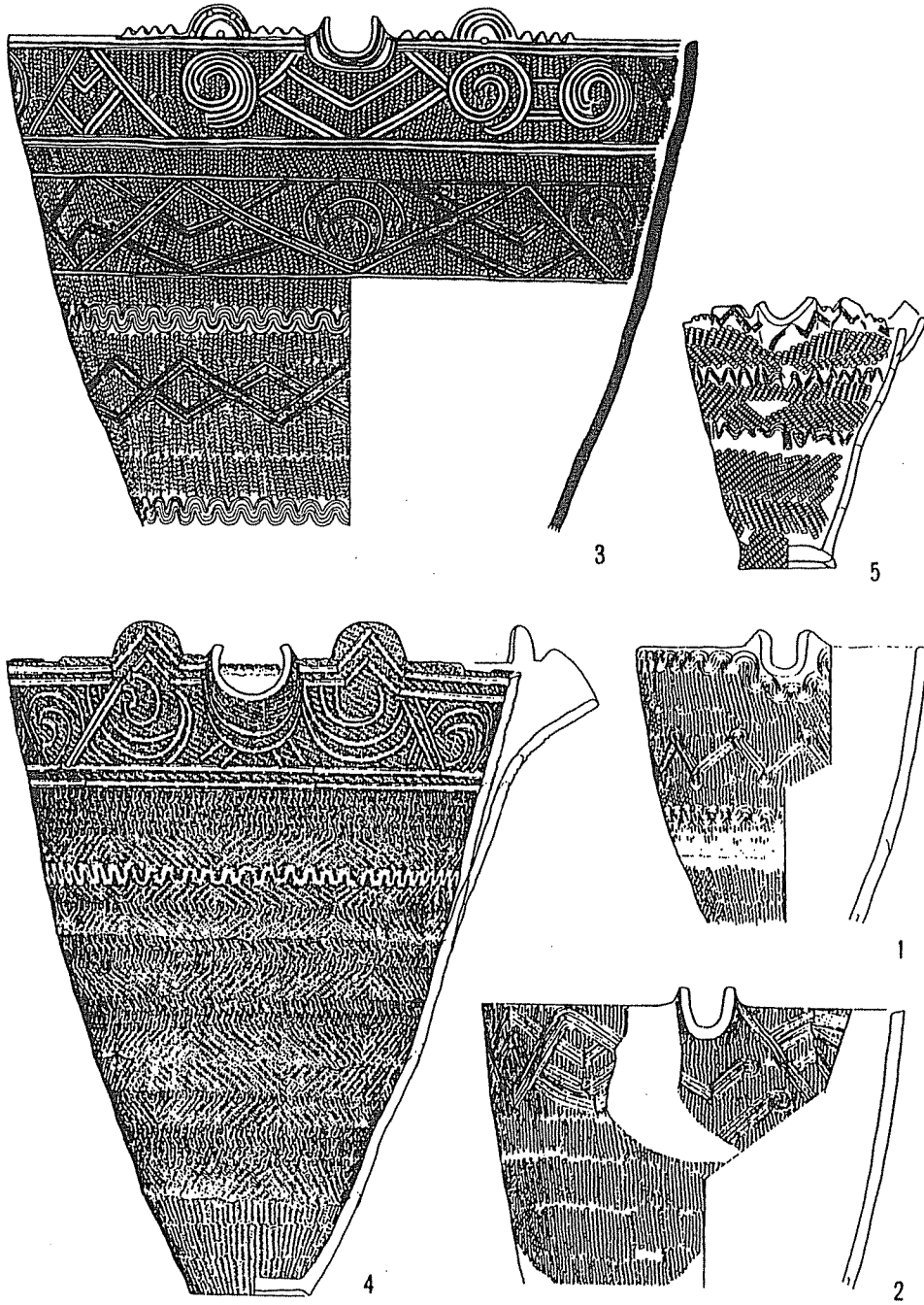


図5 片口付き土器実測図3

深鉢A (1・2：井沼方, 3：後山, 4：上福岡, 5：御庵)

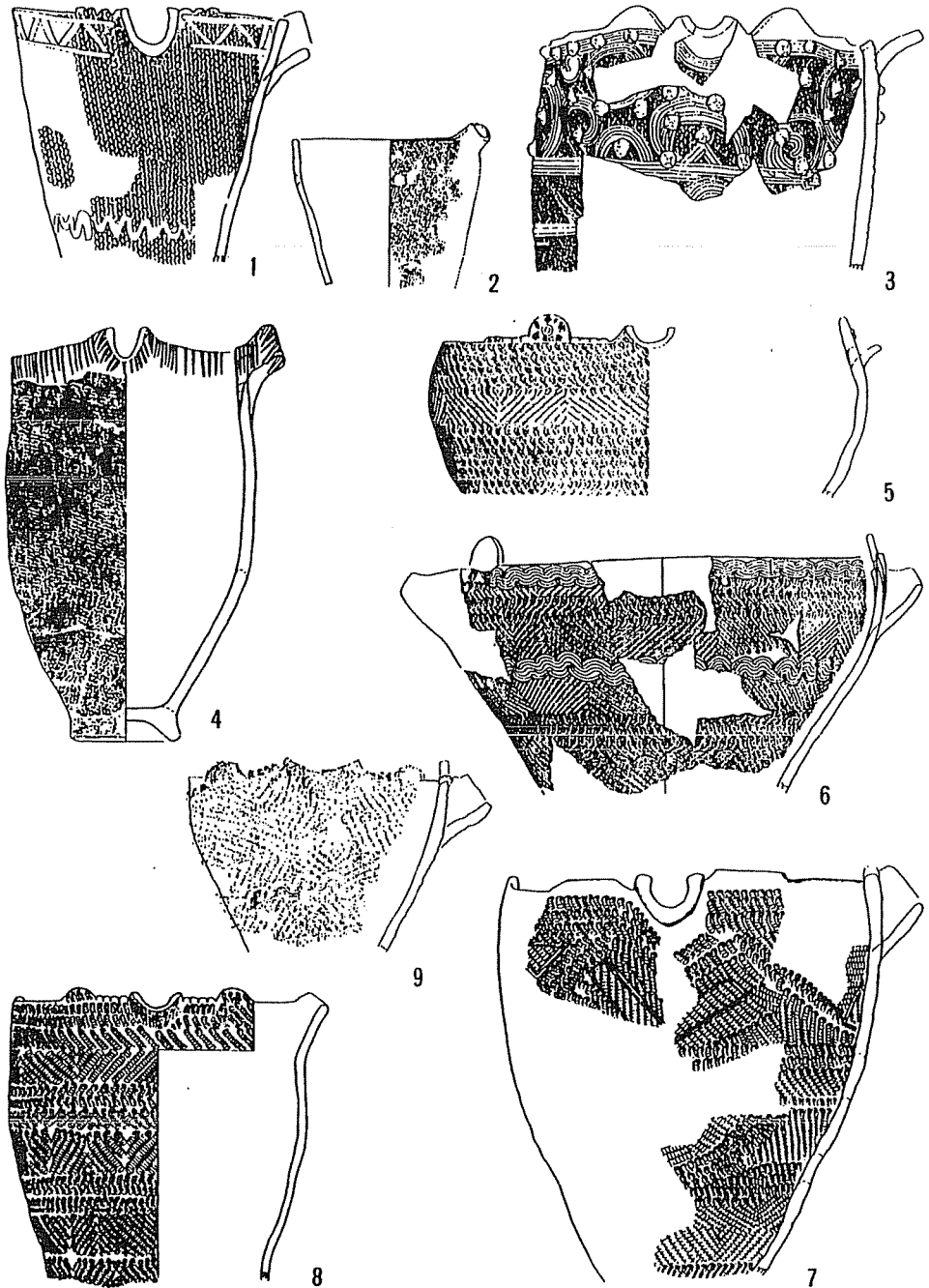


図6 片口付き土器実測図4 (1~3:深鉢A, 4~8:深鉢B)

深鉢A (1:御庵, 2:栲田第V, 3:草山)

深鉢B (4:稲荷前, 5:風早, 6:深作東部, 7:御庵, 8:打越, 9:茅山)

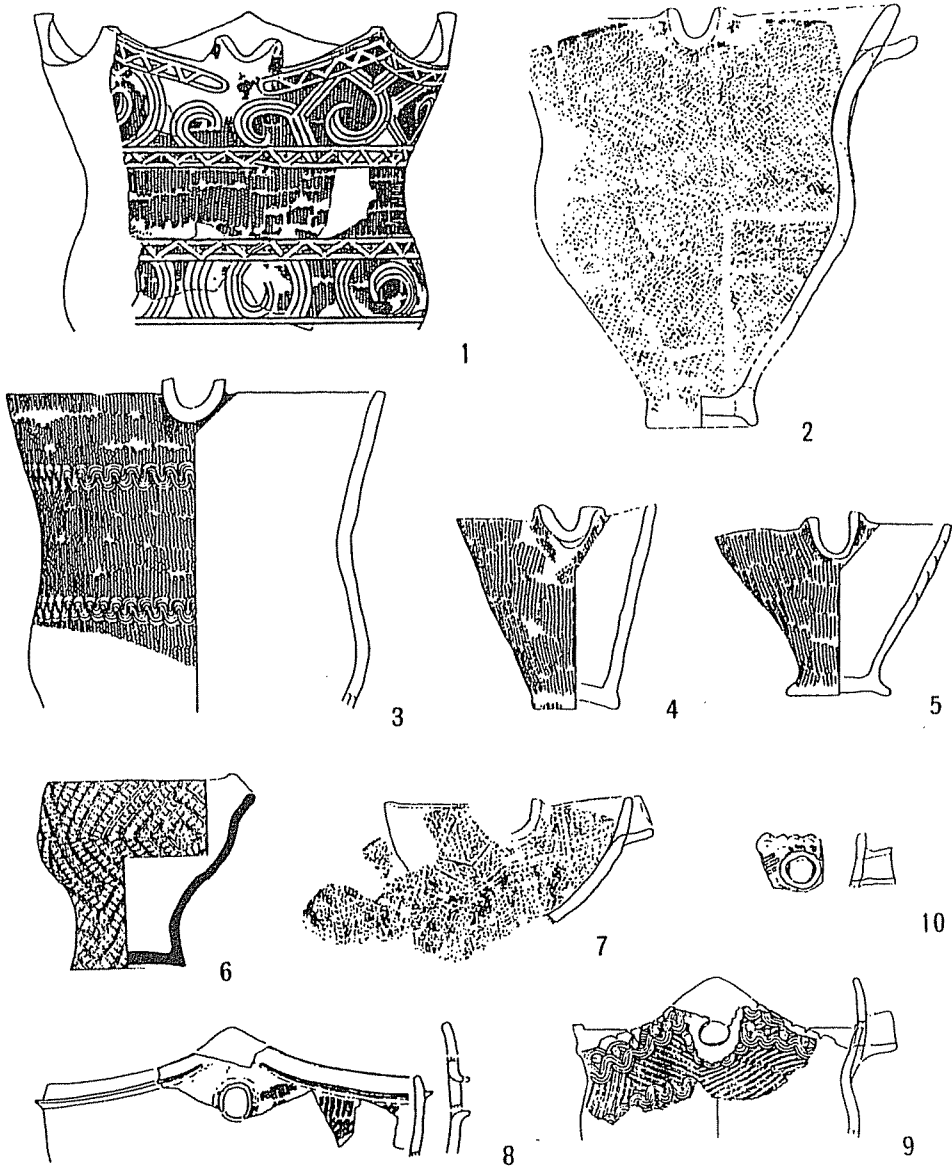


図7 片口付き土器実測図5 (1~3:深鉢C, 4・5:鉢A, 6:鉢B, 7:浅鉢A, 8~10:注口付き土器)

(1:郷州原, 2・7:稲荷前, 3~5:井沼方, 6:琵琶島, 8:若葉台, 9:深作東部, 10:宮ヶ谷塔)

- 片口付き深鉢A 1点(図5-4)と、片口の破片1点が出土。
22. 埼玉県富士見市殿山貝塚(栗原他1977)
片口付き深鉢Aが5点出土。
23. 埼玉県富士見市御庵遺跡(荒井他1979)
片口付き深鉢A 3点(図4-7, 5-5, 6-1)と、同深鉢B 1点(図6-7)が出土。
24. 埼玉県富士見市打越貝塚(麻生他1974・76)
片口付き深鉢Bが2点(図6-8)出土。
25. 埼玉県富士見市針ヶ谷遺跡(小出1983)
片口付き深鉢Aが1点出土。
26. 埼玉県飯能市小岩井渡場遺跡(埼玉県1980)
片口の破片が1点出土。
27. 東京都北区飛鳥山公園貝塚(吉田1961)
片口付き深鉢A 1点と、同深鉢C 1点が出土。
28. 東京都稲城市多摩ニュータウン No.471・472遺跡(岩橋他1990)
片口の破片が1点出土。
29. 東京都八王子市柵田第V遺跡(服部他1977)
片口付き深鉢Aが1点(図6-2)出土。
30. 神奈川県横須賀市高坂貝塚(横須賀市博1992)
片口の破片が1点出土。
31. 神奈川県横須賀市茅山貝塚(佐藤他1991)
片口付き深鉢B 1点(図6-9)と、片口の破片1点が出土。
32. 神奈川県秦野市草山遺跡(大山・長谷川1988)
片口付き深鉢A 1点(図6-3)と、片口の破片1点が出土。なおこの深鉢Aは関山I式土器であり注目される。

以上に明らかなように、片口付き土器は群馬県を除く関東地方の各県に分布し、北限は茨城県日立市曲松遺跡(図2-1)、南限は神奈川県秦野市草山遺跡(同32)である。そのなかでも埼玉県にもっとも多く、全体の50%に当る16遺跡が集中している。そして隣接する茨城県・栃木県・千葉県などでも埼玉県寄りに分布しているのが注目される。言い換えれば埼玉県東部を中心に分布しているが、この中心地に含まれる千葉県松戸市幸田貝塚(同9)では、本稿を取り上げた資料数を数倍上回るほどの資料が出土しているのである。片口の付かない土器との関係を含めて、全容が明らかにされることが鶴首される。

なお関山I式の片口付き土器は、この松戸市幸田貝塚と秦野市草山遺跡とにみられるにすぎず、関山II式に広く分布するようになる前段階については、今後の検討課題である。同様に周

表1 形態別数量表(カッコ内は%)

| | | A | B | C | 計 |
|------|----|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 片口付き | 深鉢 | 76(62.81) | 19(15.70) | 13(10.74) | 108(89.26) |
| | 鉢 | 7(5.79) | 1(0.83) | 0 | 8(6.61) |
| | 浅鉢 | 1(0.83) | 0 | 0 | 1(0.83) |
| | 小計 | 84(69.43) | 20(16.53) | 13(10.74) | 117(96.70) |
| 注口付き | 深鉢 | 0 | 3(2.48) | 1(0.83) | 4(3.31) |
| 計 | | 84(69.43) | 23(19.01) | 14(11.57) | 121(100.01) |

辺地域の分布をさらに明らかにすることも、今後の検討課題である。

3. 機能

はじめに記した形態分類に即して、破片を除いてその数量をみると、総数は121点であり、そのうち注口付き土器は3%にすぎず、しかも注口付き土器は深鉢にしかみられないのである。片口付き土器も深鉢が圧倒的に多く89%を占め、注口付き土器を加えれば深鉢だけで92%を占めることになる。したがって片口付き土器の主体は深鉢にあるとみなされる(表1)。

そして主体となる片口付き土器に限定して深鉢の3類の比率をみると、バケツ形のA類が圧倒的に多く63%を占め、胴の膨らむB類は16%、口縁部の発達するC類は11%にすぎない。深鉢のなかでも深鉢Aが主体となることは明らかである。

この深鉢Aが、縄文草創期以来の尖底土器の系譜を引くことはいうまでもない。口縁部に対して底部は著しく小さく、図示した11例についてその比率をみれば、口縁部1に対して0.23~0.51で、平均0.38である。深鉢B・Cについてもほぼ同様であるとみなされる。

これを代表的な円筒土器の遺跡である青森県八戸市蟹沢遺跡出土の円筒下層式土器と比べると、その違いが一段と明確になる。報告(江坂他1958)に図示されている19例についてその比率をみれば、口縁部1に対して底部は0.38~0.79で、平均0.55である。数値の分布域においても、平均値においてもその差は顕著である。

なお例数の少ない鉢・浅鉢は、分布が先に記した中心地に集中していて、深鉢の単なるバリエーションとみることもでき、特に別な機能があるとみる必然性はない。

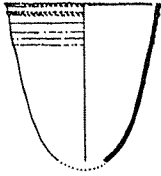
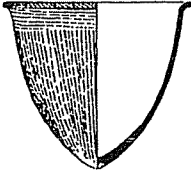

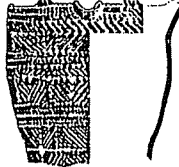
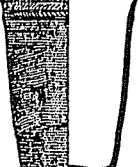





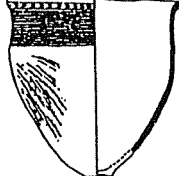
| | | 煮沸系深鉢 | 沈殿系深鉢 | |
|---------|---------|--|--|--|
| 10,000 | 草創期 |  <p>尖底深鉢</p> | | |
| 7,000 | 早期 |  <p>尖底深鉢</p> | | |
| 4,000 | 製粉技術の発達 |  <p>キャリバー形深鉢</p> |  <p>片口付き深鉢</p> |  <p>円筒形深鉢</p> |
| 3,000 | |  <p>キャリバー形深鉢</p> |  <p>注口付き深鉢</p> |  <p>円筒形深鉢</p> |
| 2,000 | 後期 |  <p>くびれる深鉢</p> | |  <p>底の大きい深鉢</p> |
| 1,000 | 晩期 |  <p>くびれる深鉢</p> | | |
| B.C.300 | | | | |

図8 深鉢形土器の2系統

したがって深鉢Aの機能のなかで、特に片口を付ける理由が問題になってくる。上記のようにこれは縄文草創期以来の尖底土器の系譜上に位置するのであり、その本来の機能は同一であり、筆者が強調するようにドングリ類の粒のままのアク抜きと深い関係がある(渡辺1987)。その基本的な機能の上に、さらに機能を強化するために片口が付けられたと考えられるのである(図8)。

粒のままのアク抜きの場合は、かなりきつい煮沸を何度も繰り返すのであるが、民俗調査の結果では日本でも韓国でも朝晩2度煮沸を何回となく繰り返し、昼と夜は真水につけてジワーッとアクを滲み出させるのである。そして毎回煮沸の度にアクをたっぷり含んだ湯を捨て、さらに新しい水を入れることになる。この時不必要に湯が外面を伝わって器面を濡らすことは、素焼きの縄文土器にヒビを走らせ割れる原因となる。片口はその時に有効生を発揮するのであり、必然性があって出現したのである。

またカゴなどをあてていたことは十分に考えられるが、それでも不必要にドングリ類が流失しないことがよい。B類の胴部の膨らみはまさしくこのことと深い関係にある。そしてC類にみられる口縁部も、このことに関連することはいうまでもない。

このアクを含んだ湯を捨てるという機能において、片口も注口も同じである。しかし注口部の直径はあまり大きくなく、時にドングリ類がつまったりして、あまり有効ではなかったと考えられる。付随的な数量しかみられないことに、そのことが反映しているとみなされる。

これらのアク抜き作業用道具としての改良の延長上に、前期の後半になるとC類の口縁部が内曲してキャリパー形土器が発達する。この内曲部分によって、ドングリ類の流失は二重に防ぐことができるようになる。したがって、片口付き土器はさらに中期にかけて一段と発達するキャリパー形土器の前段階に位置づけられるのである。

引用文献目録

- 青木 豊・他, 1982: 谷津台貝塚。千葉。
 ——・他, 1983: 千葉市谷津台貝塚。千葉。
 麻生 優・他, 1974: 富士見市埋蔵文化財(打越遺跡)発掘調査報告。文化財報告, 5。富士見。
 ——・他, 1976: 打越遺跡, 4。同, 10。富士見。
 荒井幹夫・他, 1979: 富士見市中央遺跡群, 2。文化財報告, 17。富士見。
 飯塚博和, 1987: 千葉県野田市稻荷前遺跡・図録編。野田市遺跡調査会報告, 9。野田。
 岩井重雄・他, 1981: 大古里遺跡発掘調査報告書。浦和。
 岩橋陽一・他, 1990: 多摩ニュータウンNo.471・472遺跡。東京都埋蔵文化財センター調査報告, 11, 87～180頁。東京。
 上野修一・他, 1981: 栃木県藤岡町篠山貝塚発掘調査報告書。宇都宮。
 江坂輝弥・他, 1958: 青森県三戸郡大館村蟹沢遺跡発掘調査報告。石器時代, 3, 1～18頁。東京。
 大塚広純・他, 1989: 昭和63年度松戸市内遺跡群発掘調査概報。松戸市文化財調査報告, 15。松戸。

- 大宮市, 1968: 大宮市史. 1. 大宮。
- 大宮市遺跡調査会, 1984: 深作東部遺跡群・図版編。大宮。
- 大山周三・長谷川厚, 1988: 草山遺跡 I。神奈川県埋蔵文化財センター調査報告, 18。横浜。
- 小倉 均・他, 1981: 大北遺跡・井沼方遺跡発掘調査報告書。浦和市遺跡調査会報告書. 15。浦和。
 ——・他, 1982: 井沼方・大北・和田北・西谷・吉場遺跡発掘調査報告書。同, 20。
 ——・他, 1986: 井沼方遺跡(第8次)発掘調査報告書。同, 86。
- 川崎純徳, 1967: 茨城県八幡脇遺跡調査報告。常総台地研究会報告, 1。勝田。
 ——・他, 1990: 那珂町の考古学。茨城県那珂町。
- 倉田恵津子・編, 1987: 幸田貝塚展。松戸。
- 栗原文蔵・他, 1977: 殿山。富士見。
- 黒坂禎二・他, 1985: 宮ヶ塔遺跡群。大宮市文化財調査報告書. 18。大宮。
- 小出輝雄, 1983: 針ヶ谷遺跡群。富士見市遺跡調査会調査報告. 21。富士見。
- 埼玉県, 1980: 埼玉県史, 資料編. 1。浦和。
- 佐藤明生, 他, 1991: 茅山貝塚。横須賀市文化財調査報告書. 23。横須賀。
- 佐藤 誠, 他, 1990: 鴻野山貝塚発掘調査報告書。石下町史資料. 2。茨城県石下町。
- 高橋博文・他, 1991: 千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書. 10。千葉県文化財センター調査報告書. 190。千葉。
- 田中英司・他, 1979: 風早遺跡。埼玉県庄和町。
- 中島 宏, 1984: 行田市長野中学校校内遺跡採集の縄文土器。資料館報, 15, 16~20頁。埼玉県さきたま資料館・行田。
- 奈良国立文化財研究所, 1992: 上福岡貝塚資料・山内清男考古資料3。奈良国立文化財研究所史料. 32。奈良。
- 服部敬史・他, 1977: 柵田遺跡群1976年度調査概報。八王子。
- 原田昌幸・他, 1986: 常磐自動車道埋蔵文化財調査報告, 5。千葉。
- 古里節夫・他, 1988: 昭和62年度松戸市内遺跡群発掘調査概報。松戸市文化財調査報告. 14。松戸。
- 丸子 亘・他, 1981: 郷州原遺跡。茨城県守谷町。
- 安岡路洋・他, 1974: 上尾市後山遺跡。上尾。
- 山内清男, 1939: 日本先史土器図譜. 2。東京。
- 横須賀市人文博物館, 1992: 考古資料図録. 7。横須賀。
- 吉田 格, 1961: 東京都北区飛鳥山公園内関山式竪穴住居址発掘報告。武蔵野, 40-3・4, 35~40頁。小金井。
- 渡辺 誠, 1987: 日韓におけるドングリ食と縄文土器の起源。名古屋大学文学部研究論集。史学33. 97~111頁。名古屋。

謝 辞

本稿をまとめるに際して多くの方々の御協力を仰いだ。末尾ながらその氏名を銘記して深謝の意を表する次第である(五十音順, 敬称略)。

瓦吹 堅・倉田恵津子・鈴木裕芳・早川智明・比田井民子・古里節夫・村田文夫。